



#YourChoiceProject



自分の未来は、
自分で選ぶ。

Annual Report 2023

2023 年度 年次活動報告書

特定非営利活動法人
#YourChoiceProject

代表挨拶

2023 年度の活動をふりかえって

日頃より当法人に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2021 年秋にスタートしたこの活動も、早や 3 年目を迎えました。

2023 年度は、調査結果の発表から始まり、メンタリングコミュニティや政策提言活動を開始するなど、団体の根幹となる取り組みが多く生まれました。

そんな 2023 年度の活動を振り返って、代表 2 名よりご挨拶申し上げます。



代表 / Co-Founder 川崎莉音

2023 年は、飛躍の 1 年と言っても過言ではありません。創業当初から掲げるビジョンのもとで、具体的に取り組む事項として二つのミッション「地方女子学生の進学の実機を広げる」「地方女子学生を取り巻く課題を社会化し、環境を変える」を策定し、目指す先と道筋が明確になったことで様々な活動が大きく前進しました。

特に、メディア掲載やクラウドファンディング等を通して活動が多くの方々に届いたことで、同じ課題意識を共有している皆様からの応援のお声をいただけたことは、大変大きな励みとなりました。

一方で、政策提言チームの活動等では、複雑な利益構造の中で、課題を認識してもらうことは非常に難しく、まだ実現できていないことが多くあります。対症療法に終わらず、課題を生み出す構造自体を変えるために動くことの難しさを痛感した 1 年でした。「どうせ無理だ」「変えられない」と嘆くことは簡単でも、私たちは絶対に諦めたくないし、私たちがこれから生きていく社会を、そんな状態で残してはおけません。

2023 年度に行った最大の決断は、今後何年かけても、真にこの課題を解決するということです。NPO 法人格の取得はその決意のあらわれの一つです。私たちが目指す「全ての学生が、生まれついた地域やジェンダーに関わらず自由な進学選択・キャリア選択ができる社会」の実現を、皆様にも共に夢見ていただけたら、これ以上嬉しいことはありません。

引き続き、地方女子学生一人ひとりに向き合うミクロな視点と、課題を生み出す構造を捉えるマクロな視点を両立し、弛まぬ努力を続けて参ります。



代表 / Co-Founder 江森百花

5 月に発表した調査レポート、「なぜ、地方の女子学生は東京大学を目指さないのか」の反響は思った以上のものでした。地方に蔓延る進路選択上のジェンダーギャップを、今までデータがなかっただけで、多くの人がなんとなく感じていたことの表れかと振り返っています。この調査をきっかけとして、私たちの活動を各種メディアに取り上げていただき、地方が、女子が、抱える課題をより多くの人たちに知ってもらえたことをとても嬉しく思います。留学中、時間を割いてでもやった甲斐がありました（笑）

このように、私たちと課題観を共有していない人たちにも、「地方女子の実情」が届きつつあると思います。データを使った客観的な説明と、誰を非難するでもない中立的な姿勢を忘れずに、できるだけ多くの人がこの問題を社会課題として捉えられるよう、これからも調査事業を続けていこうと思います。

また、2023 年はメンタリングコミュニティ事業が満を持してスタートした年でもありました。メンタリングを受けている第 1 期生は皆、高い志を持って、高校 3 年生をスタートしようとしています。地方女子高校生一人ひとりの「強い意志をもって高きを目指す力」は小さいようでいて、それが周囲に伝播していくことで、やがて大きな変化を生みます。来年度は第 1 期生が納得の行く進路を勝ち取るサポートをすることに加え、第 2 期生に対して、パワーアップしたコンテンツと、自己効力感の底上げをするようなメンタリングを提供していきます。

草の根的ではありますが、この事業が波紋を呼ぶ「初めの一滴」になることを願っております。

数字で見る #YourChoiceProject

Input 資源

組織基盤

団体メンバー
21名

ご支援

月額・
単発寄付者
3名

#YourChoiceProject は、ビジョンやミッションを共有する有志の学生メンバーによる団体です。7つほどのチームに分かれてプロジェクトを進め、1ヶ月に1回の全体ミーティングで活動進捗を確認するという形で活動を進めています。メンバーは、学業の合間をぬって無償で活動に励んでおり、団体としての活動費は、ひとえに支援者の方々からの寄付や助成金の取得によって賄われています。

Column

クラウドファンディング

「地方女子を取り巻く、進路選択上のジェンダーギャップを解消したい！」を実施しました。

支援者数
283名

支援額
4,263,110円



支援者の声



地方で育ちました。高校生の時には選べる進路選択肢がとっても少なかったことを覚えています。どうかそんな方が減りますように。

進学を望む女性の環境が向上することを心から願っております。微力ながら、応援させてください！



Output 活動と結果

To: 高校生 & 保護者

#MyChoiceProject

地方女子高校生の学習、将来設計をサポートする、伴走型メンタリングコミュニティが始動しました。北は宮城県から南は鹿児島県まで全国の女子高校生に参加いただいています。メンターは、団体メンバー以外の方も含め多くの人に支えられています。

メンター数
12名

メンティー数
46名

To: 社会

イベント

PEP サミット、さつき会フォーラムなど

情報発信

進路選択上の地方女子の問題は、いまだ社会的認知が完全に得られていない状況です。私たちは団体としてイベントに参加したり、HP や SNS での情報発信等を積極的に行ったりすることで、問題の社会課題化を図っています。

HP 閲覧者数
19,140名 (過去12ヶ月)

X フォロワー数
846名 (2024年4月6日時点)

Outcome 成果

受賞

- 東京大学総長賞
地方女子の大学進学を取り巻く社会課題の解決に向けた取り組みが評価されました。
- Policy Pitch 最優秀賞提言賞
地方女子が首都圏難関大学に進学するハードルを低くするための施策を提言しました。



メディア

メディア露出
14本



主なメディア：読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞

#YourChoiceProject とは？



About Us

私たちは、全ての学生が生まれついた地域やジェンダーに関わらず自由な進学・キャリア選択ができる社会を目指して、地方の女子高生の抱える進路選択上のジェンダーギャップの解消に努めています。「志望校は諦めて地元……」そんな地方の女子高生のために、2021 年から活動しています。

Vision

全ての学生が生まれついた地域や生まれもったジェンダーに関わらず、自由な進学選択・キャリア選択ができる社会の実現

地方女子を取り巻く社会課題

東京の大学に通うのはお金がかかるから、お兄ちゃんだけであなたは我慢してね。

女の子だから、そこまで大学受験、頑張らなくても良いんじゃない？

理不尽なステレオタイプで、無意識のうちに摘まれている興味関心の芽があります。地方女子学生は、進路選択に際して、首都圏女子学生とも地方男子学生とも異なる、さまざまな課題を抱えています。私たちは、今年の春に全国約 4000 人の高校生にアンケート調査を行い、実際に地方女子学生が抱えている課題を明らかにしました。

1. 「女子は地元」のジェンダーステレオタイプと東京への強い忌避感

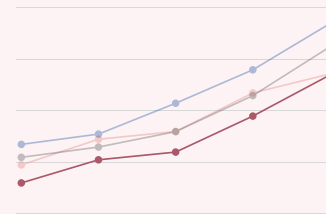
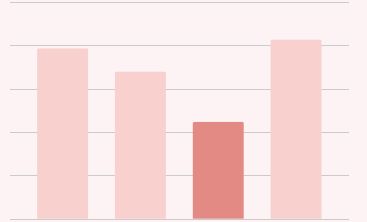
実家に近い大学に通ってほしいという親の期待は、地方女子は地方男子に比べて有意に高いことが分かっています。「女子は地元」の固定観念は、いまだに色濃く残存しています。「実家から離れることはできないから」と、志望校を下げる女子学生を、たくさん見てきました。性別が理由で、行きたい大学に行くことができない状況は、決して見過ごすことはできません。

また、「上京することそのもの」に抵抗感を感じている地方女子も多いことが分かっています。地方女子学生は、「地域」「性別」の二重の壁を目の前に無意識のうちに選択肢を狭められていると言えるでしょう。



2. 地方女子学生は、偏差値の高い大学への進学にメリットを感じていない

「偏差値の高い大学に行くことは自分の目指す将来にとって有利だと思うか」という質問に対して、首都圏女子と首都圏男子には回答に差がなかったのに対し、地方女子と地方男子には回答に顕著な差が見られました。ここから、**地方では女子学生が性別が理由で、東京大学などの偏差値が高い大学へ行くことそのものにメリットを感じていない**ことが分かります。



3. 地方女子学生は自己評価が低い

偏差値などの客観的な指標から、同程度の学力を有しているにもかかわらず、地方女子は首都圏女子・地方男子に比べ自己評価が低いことが分かりました。つまり、**学力が同程度である場合でも、地方の女子学生は他の属性に比べ、自分の東大合格可能性について自信が低い**ということが言えます。

日本の高等教育におけるジェンダーギャップは深刻だと言えるでしょう。そもそもの大学進学率も長らく女子は男子より低いままですが、難関大に注目すると、学部生に占める女性の割合は東大・京大ともに 20%程度、理系だけの東京工業大学に至っては 13%です。その中でも、地方女子学生は地方特有の情報・意識格差という更なる壁に直面しなければなりません。

教育は将来の政治・経済の土台です。政治家や企業の管理職に難関大学出身者が多いなか、難関大学において地方女子が少ないままでは、ジェンダー格差や地域格差に理解の少ない社会の継続を許してしまいます。しかしながら、当事者以外の共感を得ることが難しいという側面もあり、地方女子学生特有の進学選択上の課題に取り組んでいる団体は他にありませんでした。社会課題としての認知も希薄なため、私たちはパイオニアとして社会に変革を起こしていきたいという思いで活動をはじめました。

Mission 1

地方女子の進学の選択肢を広げる

- ✓ 地方の女子学生ひとりひとりに長期的にロールモデルを提示し、女子学生が、当てはめられたステレオタイプから脱却することをサポートします。
- ✓ 様々なキャリアの提示を通して、地方女子学生の職業選択の幅を広げます。

Mission 2

地方女子を取り巻く課題を社会化し、環境を変える

- ✓ 地方女子を取り巻く課題に取り組むパイオニアとして、社会全体でこの課題に取り組み、変革していく土壌を作ります。
- 根本的な原因となるステレオタイプの解消
- 資源や制度の不均衡の是正



意識と能力



社会資源と
制度



社会規範と
深層構造



ルールと政策

これらの分野全てにアプローチすることで、私たちのミッションを実現していきます。政治・経済の土台となる教育分野で変革を起こすことで、私たちは単なる学生団体の域を出て、社会全体にインパクトを与えられるよう活動していきます。

Topic
01

2023.05

調査「なぜ、地方の女子学生は東大を目指さないのか」を公表

全国の高校生 3716 名を対象として、地方 / 首都圏・女子 / 男子の間にどのような意識格差が存在するのかを明らかにする調査を行いました。これによって地方女子には、「女子は地元」といったジェンダーステレオタイプや東京に対する強い忌避感が存在すること、偏差値の高い大学に行くことにメリットを感じていないこと等が明らかになり、地方女子を取り巻く独特の課題観を浮き彫りにしました。

全国調査
なぜ、地方の女子学生は
東京大学を目指さないのか

Topic
05

2023.11

#YourChoiceProject
2 周年イベントを開催

団体は 2023 年 11 月をもって 2 周年を迎え、それを記念して 2 周年記念パーティーを開催しました。団体代表による活動報告のほか、門ひろこさま（自民党東京 8 区支部長）、池谷裕二先生（東大総長補佐・教授）、田中沙弥果さま（NPO 法人 Waffle 代表）をゲストとして呼びしてパネルディスカッションも行いました。パーティーでは来場下さった方同士の交流や意見交換も見られました。


Topic
06

2023.11

駒場祭でパネルディスカッションを開催

紀野紗良さん（元東大王）、後藤由季子先生（東大薬学部教授）をゲストとして呼びして、駒場祭でパネルディスカッションを行いました。メディアによって形作られた東大の印象や、女性比率が少ないことに対して東大の講じる対策などについてお話をしてくださいました。学園祭ということもあり、女子中高生や保護者の方などが参加してくださいました。

#MyChoiceProject、始動。

あなたの可能性が、今、広がる

Topic
02

2023.06

メンタリングコミュニティ
#MyChoiceProject 始動

地方女子高生の学習・将来設計のサポートを目的とした、2 年間の伴走型メンタリングコミュニティを始動しました。メンタリングは生徒 1 人に対し現役女子東大生のメンターが 1 人つき、継続的な学習サポートを行い、2 年間で志望校に合格する力を養うものです。

Topic
03

2023.08

政策立案コンテスト PolicyPitch で
最優秀提言賞を受賞

8 月 7 日に開催された、政策立案コンテスト PolicyPitch（株式会社 PoliPoli 主催）にて、大学寮・県人寮への女性受け入れ促進のための補助金制度の提案をし、最優秀提言賞を受賞しました。


Topic
07

2024.01

PEP サミット 2024 にて
Youth Pitch と
パネルディスカッションに登壇

1 月 20 日に開催された PEP サミットの Youth Pitch とパネルディスカッションに登壇しました。Youth Pitch では首都圏への地方女子学生の受け入れ体制強化や地方女子保護者のアンコンシャスバイアス緩和、地方からの女子リーダーを増やすための方針転換の必要性について提言しました。


Topic
04

2023.11

クラウドファンディング「地方女子を
取り巻く、進路選択上のジェンダー
ギャップを解消したい！」を実施

#YCP が地方女子高生に質の高いメンタリングを提供しつつ、課題の社会問題化を図って本格的に政策提言に繋げていくため、500 万円の支援金をクラファン形式で募りました。目標金額まで僅かに迫る 426 万円という大健闘に終わり、団体のコア事業をより良い形で続けることができるようになりました。283 名の支援者の方、拡散など協力して下さった方ありがとうございました。


Topic
08

2024.03

東京大学総長賞を受賞

「地方女子の大学進学を取り巻く社会課題の解決に向けた取り組み」を評価され、令和 5 年度の学生表彰「東京大学総長賞」を受賞しました。本賞は、東大の学生として顕著な業績をあげた者に贈呈される名誉ある賞です。当団体としても受賞できたことをミッション実現に向けた大きな一歩であると捉えています。

チーム別活動報告

このページでは、#YourChoiceProject 内の各部署の皆さんに、1年間の活動内容のまとめ、特に注力した事柄、次年度の抱負について語ってもらいます。

メンタリングコミュニティチーム

活動内容のまとめ

地方女子高校生の学習・将来設計のサポートを目的とした2年間の伴走型コミュニティ「#MyChoiceProject」を2023年6月に始動させ、運営してきました。具体的には、42名の地方女子高生に対して月1度のメンタリングとグループ交流会、2ヶ月に1度のキャリア講座を提供してきました。

今年度活動で特に注力した事柄

大学生をより身近に感じてもらうこと、大学生生活の解像度を上げモチベーションにしてもらうことを目標に、週2回大学生の日常を発信するフリー日記などのコンテンツを設けました。目標通り、大学生生活の解像度が上がって受験勉強のモチベーションに繋がったという声をもらいました。



次年度活動の抱負

第1期生が納得のいく進路選択ができるよう、全力で伴走します。さらに第2期生に対して、より地方女子の実情に根差したコンテンツを提供し、メンタリングやキャリア講座が地方女子の自己効力感をあげるのに効果的であることを数字で示していきます。

政策提言チーム

活動内容のまとめ

政策提言チームは、県人寮不足の課題解決、保護者のアンコンシャスバイアス解消、女性版骨太の方針への目標数値の記載という3つの目標を掲げて動いてきました。模索と地盤強化の1年でしたが、議員の方々への地道な提言活動や、度重なるロジック修正を経て、漸く光明が見えてきています。

今年度活動で特に注力した事柄

「地方からの若年女性の人口流出」を問題視する国の方針と噛み合わないのではないか、という点を不安視されることが多くありました。この懸念の解消に向け、若年女性のUターン促進にはジェンダーギャップの解消が不可欠であるというロジックを立て、新しい機会の獲得へ繋がりました。



次年度活動の抱負

政策目標の実現に向けて、とにかくがむしゃらに動いていきます。特に、保護者のアンコンシャスバイアス解消に関しては、私たち自身でも仮説検証を繰り返して、効果のあるプログラムを作っていきたいと思っています。

調査事業チーム

活動内容のまとめ

調査事業チームは、2022年秋に高校生の進路に対する意識調査の準備を開始し、2023年2月から4月にかけて全国の高校生3,816名に対しこれを実施しました。5月にはその分析結果「なぜ、地方の女子学生は東京大学を目指さないのか」を発表しました。

今年度活動で特に注力した事柄

サンプルに偏りが出ないように、という部分に特に注力しました。具体的には、意識調査を任意回答にするのではなく、高校にクラス単位・学年単位で全員が回答する時間を取るよう掛け合い、回答の「する」「しない」で結果に影響が出ないようにサンプリングをしました。



次年度活動の抱負

進路選択上のジェンダーギャップについて、地方にとどまらず包括的にまとめた「ジェンダーギャップ白書（仮題）」を作成することによって、この問題に対する社会全体の解像度をあげることを目指します。

PRチーム

活動内容のまとめ

PRチームは、「#YCPの関係人口を拡大し、支援して下さる方々との信頼関係を深める」をミッションに掲げ活動に取り組んできました。具体的には、Xの運用強化、月例報告書の作成、オープンチャットの運用等で、サポーターとの連携強化に取り組みました。

今年度活動で特に注力した事柄

今年度一番の転換点はクラウドファンディングでした。これによって私たちが関わる支援者の方が大幅に増え、それに伴い事業に一層の責任感が生まれました。漏れないよう支援者の方々へのサポートについて綿密に話し合い、オープンチャット運用や支援者への各種リターンに取り組みました。



次年度活動の抱負

PRの事業を安定的に行い、引き続き#YCPの知名度・信頼度を高めていきます。今後もメディア露出やSNS運用を通じて、より多くの人に#YCPや#YCPが掲げる課題意識を知ってもらえるよう広報に取り組んでいく所存です。

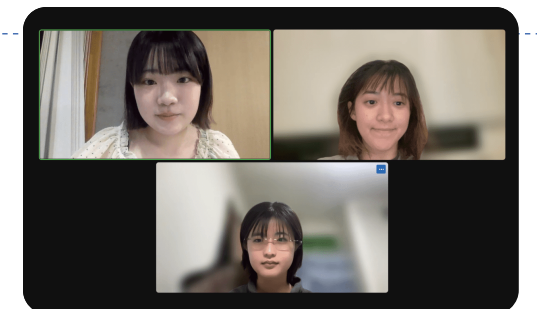
資金調達チーム

活動内容のまとめ

資金調達チームは、寄付・援助を中心に資金調達の方策を打ち出してきました。具体的には、上野千鶴子基金に採択されたこと、政策提言イベント「Policy Pitch」で賞金120万円を獲得したこと、初のクラウドファンディングで426万円の支援金を賜ったことなどが挙げられます。

今年度活動で特に注力した事柄

クラウドファンディングに挑戦したのですが、予想以上の反響に感謝の気持ちで一杯です。X（旧 Twitter）での拡散がきっかけで急速に支援者が増え、当事者や関係者から共感のメッセージが次々と届いた時は、チーム一同この活動をして本当に良かったと思えました！



次年度活動の抱負

これからは支援して下さっている方々の期待に応えて、NPOとして持続的に活動していく以上、寄付や企業提携を通して定期的に資金を確保する方法を確立したいと考えています。

団体詳細

Members

川崎莉音（政策提言チーム長）・江森百花（調査・メンタリングコミュニティチーム長）・
長尾すみれ（リサーチチーム長）・藤崎那泉（資金調達チーム長）・池田歩夢（PR チーム長）・
古賀晶子（コーポレートチーム長）・伊藤りん・今村綺希・岡本克美・神永佳南・木村莉緒・白倉正博・
秦珠実・武功翼・田代悠・千坂日路・前川百花・森原ソフィア遥・山口万瑛・山本皐太

🌐 <https://yourchoiceproject.com/>

✉ info@yourchoiceproject.com

✕ @YourChoice_ycp

📷 @YourChoice_ycp

公式 HP ▼



公式 X ▼



特定非営利活動法人



#YourChoiceProject

寄付する

あなたの想いが、高校生のチカラになる

#YourChoiceProject の活動は、応援してくださる皆さまの寄付で成り立っています。

「女子だから」「遠いから」「私にはそんなことできない」……

地方女子の前にそびえる見えない壁を壊し、地方女子が選べる未来が

広がるように、あなたの力を貸してください。一緒に、全ての

女子学生が自分の進路を自分で決められる世界を作りませんか。

あなたの寄付が、その実現の大きな力となります。

寄付はこちらから ▼

